

問題行動等の未然防止に向けた学校と家庭との協働の在り方
～情報共有と行動連携による取組を通して～



Plan

小学校の実践

現状

◇自校児童の実態

- 明るく朗らかな児童が多い。
- △よりよい人間関係の在り方を学ぶ機会が少なくなっている。
 - ・自分にとっての損得を優先して、判断してしまう。
 - ・相手の気持ちを考えずに行動してしまう。
 - ・自分の思い通りにならないと他人を攻撃してしまう。

研究テーマ

思いやりの心を持ち、よりよい人間関係を築く児童の育成

～相互理解を深める交流活動や学校と家庭・地域との協働による取組を通して～

〈主な取組の柱〉

- ・児童同士が意見交流などの関わり合う場をつくり、互いの考えや思いを聞き合えるような指導方法の改善を図る。
- ・学校と家庭・地域が協働して児童の自己肯定感や自己有用感を高める活動を工夫する。

計画

◇道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる指導の工夫

- ・思いやりに関する項目「親切」「協力」「友情」に重点を置いた指導計画の立案
- ・意見を肯定的に受け止める、児童の主体的な取組を支える指導の工夫

◇思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って判断しようとする態度を育むための、相互理解を深める交流活動

- ・授業等における意見交流活動の充実及び自己評価、他者評価の設定
- ・異学年交流行事の実施

◇行事、交流活動ごとの振り返りシートや各種通信の活用

- ・交流活動における自己の目標の設定と活動後の振り返り
- ・学校と家庭の両方から児童の頑張りを認め、励ますコメントの記入
- ・児童の自己肯定感や自己有用感の高まりの把握及び改善点の洗い出しと検討

◇学校評価に「学校と家庭との協働」項目の新設

- ・「家庭・地域と情報の共有」等の設問の設定

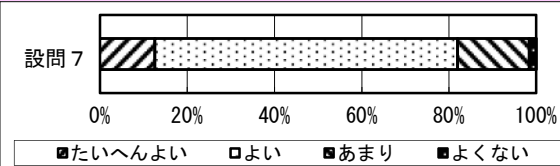


Check

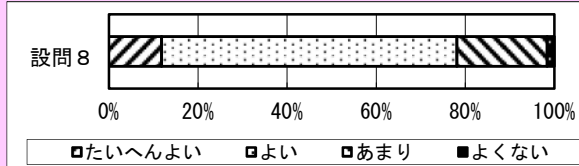
学校評価の項目に位置付け、外部の目でチェック、検証を受けています。

家庭・地域の学校評価等

設問7：家庭・地域と情報の共有



設問8：よさを認め合う家庭・地域との連携



- 1年間の学校の取組を振り返り、学校と家庭・地域との情報共有や行動連携が図られるようになったと実感できる保護者が増えてきた。
- 2学期に実施した学校評価アンケートの「学校の様子を保護者に分かりやすく伝えている」「子どものことに関する連絡や相談に適切に対応している」の回答が昨年度を上回る結果となり、学校の取組が保護者や地域の方に好意的に受け止められていることが分かった。

児童の変容



自分から話し掛けたり、声を掛けられたら答えたりして、仲良くなりました。今度は、自分だけでなく、みんなが楽しいと思うように自分から話し掛けていきたいです。
〈交流活動後の児童の感想〉

学校での子供の様子が分かるようになり、学校での出来事について親子で話をする機会が増えました。
〈保護者の声〉

教師や保護者からの振り返りシートの励ましにより、自信がもてる児童も増えました。学校と家庭・地域との情報共有は、児童に対する互いの思いを共有することにもつながり、良好な関係を築くことができました。
〈教師の声〉



Act

よりよい改善に向けて

- ◇各教科等の授業の改善
 - ・児童の道徳的価値を深めさせる指導の工夫・改善を行い、発達段階に応じた意見交流活動の充実を図る。
- ◇道徳的実践化を図る交流活動の充実
 - ・児童の参画による異学年交流活動の計画・立案をはじめ、年間計画と内容を検討し、充実を図る。
- ◇学校と家庭、双方向からの児童への働き掛けや情報共有の方法の工夫
 - ・振り返りシートや各種便りの効果的な活用の仕方を検討する。
 - ・学校と家庭・地域とのよりよい協働に向けた取組の一層の充実を図る。

Do

まずは学校から積極的に子供たちのよさを伝えることに取り組みました。双方向の情報共有となるよう取り組み方を工夫しました。

思いやりの心もち、よりよい人間関係を築く児童の育成 ～相互理解を深める交流活動や学校と家庭・地域との協働による取組を通して～

子供たちの取組を支援するため、情報共有により信頼関係を築き、学校と家庭が同じ方向性をもって関わることを意識しました。

情報共有

◇児童の様子を伝え合う場の設定

- ・学校での様子について家庭で話題に上がったことを連絡していただけるように学年通信で依頼する。
- ・集まった意見は、学校便りで紹介する。

「保護者の皆様の声をお聞かせ下さい」 1学期に行った授業や行事についてご家庭でも話題に上がっていることと思います。お子様から学校での話題を聞いて、保護者の皆様を感じた子どもの成長や活動についてのご感想など、お聞かせ頂けると幸いです。

----- 切り取り線 -----

【保護者の声】 年 組 児童名 () より

<「学年通信」で依頼するよさ>

- 「学年通信」で依頼することで、学校行事への意見だけではなく、学級（学年）の取組や担任に対する意見を書いてもらいやすい。
- 月1回の発行であれば、保護者の負担感を減らすことができる。

◇情報共有を図る場と伝える工夫

伝える場	伝える内容及び留意点
Web ページ	○児童の「思いやり」が感じられる場面や頑張りを認める記事を掲載することで、学校の取組に対する理解の促進を図る。
学校便り	○従来の学校便りの内容に加え、家庭や地域から寄せられた意見を積極的に発信する。学校が意見を発信したり、肯定的に受け止めたりすることで、保護者の自己有用感を高め、学校と家庭の積極的な協働につなげる。
学校評価	○「協働」に対する評価項目を作成し、家庭や地域からの意見を集約して公表することで、家庭や地域にフィードバックする。

2016年11月19日(土)

作品展 ふれあい鑑賞



今回の作品展では、異学年での「ふれあい鑑賞」を行いました。1・6年2・5年、3・4年のペア学年でお互いのよさを見つけ出して伝え合いました。

普段、保護者が目にする機会の少ない活動の記事を、できるだけこまめに更新しました。どの学年も記事がアップされていると、家庭や地域の関心が高まります。

【学校便りに掲載した意見の例】

「児童学校保健委員会に参加して」子どものストレスには、かなり気を付けているつもりですが、親の私がストレスを与えていることに気付き、気を付けようと思いました。最後のリラクゼーションも是非、家庭でもやってみたいです。まず、親から笑顔になれるよう、今日のことを参考にしたいと思います。

行動連携

◇基本的な生活習慣の定着を図るための「重点目標」の周知

- ・よりよい人間関係を築く基礎としての「基本的な生活習慣」の定着を図るため、家庭や地域において、学校と同一歩調で児童に指導してもらえるよう、重点目標を繰り返し家庭や地域に伝え、周知を図る。

周知を図るため、「あいさつ・返事・うた・掃除、時間厳守の〇〇っ子」のスローガンにして伝えました。



◇学校と家庭・地域が連携して取り組む活動を増やす

- ・学校と家庭、地域で例年取り組んでいる「親子奉仕活動」や「ふれあい運動会」に加え、保護者にも学んでもらう機会として「交通安全教室」「情報モラル出前授業」「児童学校保健委員会」への参加を呼び掛ける。

◇行事や交流活動の「振り返りシート」での認め合い・相互理解

- ・教師と保護者のそれぞれの立場から言葉を書き添え、児童のよさを認めていく。



1 学期のふれあい活動を振り返ろう

自分の〇〇がよかった	〇〇をもう少しがんばりたい
自分のふれあいがよかった理由は、どう走中のときは、やさしくしゃべると声が大きいです。	あきらめな心をもちたい理由は、どう走中のときは、あきらめな心をもちたいから

2 学期のふれあい活動の目標を考えよう

運動会をがんばりたい理由は、1年～6年がうまからです。

先生より

どの活動も、国・科のこころを大切に、話し合い、行動を促したことがあったね。みんなやと楽しいと聞いています。2学期も上手に声をかけようね。

おうちの方より

あがり、楽しい時間を過ごして、他の学年の子と一緒に行動し、下の学年の子たちにやさしく声をかけられた事は、とても良いことだと思います。普段からこういう話し方を出来るように思います。もう少しがんばりたい事があるかな？と聞いてみたいので、これから心掛けて自分から話を聞いてみます。

- ・児童を介して、学校と家庭が、互いの思いを知り合う機会として捉える。

「振り返り」単に「反省」とせず、「よかったところ」や「がんばりたいところ」など、視点を示して振り返らせました。

「先生より」自己肯定感や自己有用感を高められるよう、その子なりの頑張りやよさを認めたり、思いやりのある行動について伝えたりしました。よさを伝えることは、児童を肯定的に捉えて成長を支える学校の姿勢を示すことでもあります。

「おうちの方より」保護者が何を望み、どのような見方をしているのかを学校が捉える機会です。懇談会等、保護者と連絡をとったり面談したりする場において、本シートの内容を話題にすることで、学校と家庭との良好な関係作りに生かしました。